

特集

問う、

誓う、

もう一度。

松前町民抜き打ちテスト

実施時間：一生

氏名 _____

問：どんな人になりたいですか？

半世紀続く伝統行事

2月7日。立春を迎えたにもかかわらず、雪による厳しい寒さが続いたこの日。北伊予中学校体育館では、中学2年生の熱い思いが体育館にこだましていた。大人の階段を上り始めた14歳に対してその自覚を促す「少年の日」記念集会の開催である。

少年式は、昔の元服にちなみ昭和38年に愛媛県が全国に先駆けて始めたものだ。立春の日を少年の日と定め、「自覚」「立志」「健康」を3本柱に、これまで県内の全中学校で盛大に式典などが行われてきた。

時代の流れで規模が縮小され、行事を行わない学校も増える中、北伊予中学校では今でも記念集会として開催。保護者と全校生徒が集まり、14歳の節目を祝っている。

「式典という形ではなく、どこに出しても恥ずかしくない行事です」と話すのは沼田先生。「少年の日」記念集会を担当した学年主任だ。

「中学2年生は、新入生や卒業生と違って行事ありません。でも成長をしていく現在の自分自身を確認するには、ちょうどいい時期な



保護者と全校生徒が固唾をのんで「誓い」を聞き入る

だから、前に出ようという気持ちを表したくて。先生たちを見返したいと思いました」

男子唯一の実行委員である平田晴之佑さんも同じ意見だった。

「個人的にも自分の成長した姿を見せたい。前に出て見せ場を作ろうという思いでした」と笑う。

「挑戦しよう」

実行委員を中心としたこの思いは、他の生徒にも次第に広がりを見せる。村上達樹さんもその一人だ。

「最初に『少年の日だから、誓いの言葉をつくらう』と聞いたとき

14歳、自らに

問

少年の日記念集会
北伊予中学校体育館

んです。そして『自分一人ではなく、いろいろな人に支えられてここまで育った』と感謝の心を持ってほしくて、この行事を続けています」

ただし、生徒はすぐに先生の思いを受け止めてくれるわけではない。最初に「少年の日」のことを伝えたときの反応を振り返り、「生徒はピンときてなかった」と沼田先生は笑う。

「自分が好きな漢字、思い入れのある漢字を考えてください。な



われら14歳
夢や希望の実現に向け
今大きく
羽ばたきます

は、『なんでやねん(笑)。なんでこの年で』と思いました。でも、友達もちゃんと考えて、本当にいい言葉をつくっていたので、ほくも成長した姿を見てほしい。一人一人の言葉をもっと見てもらいたいと思いました」

思いを本番でしっかり出し切るため、全体練習も繰り返した。

「失敗してもいいから堂々とやりきろう。そしたら伝わるから」と生徒を鼓舞する沼田先生。

誓いの叫びは、回を追うごとに大きくなっていった。

自覚・立志・健康・挑戦 そして成長

こうして迎えた記念集会当日。校長先生のあいさつに続いて、生徒一人一人が誓いの言葉を発表した。

「自分に負けない、強い心をもった人間になります(中矢菜柊子さん)」「友達を大切にできる人になります(柏原聖柊さん)」「命を大切に、たくましく生きていきます(山田耀生さん)」「猪突猛進! 何事にも突き進んでいきます(松田圭一郎さん)」

自覚・立志・健康・挑戦。

ぜその漢字にしたかを含めて、誓いの言葉として発表します」と言っても、生徒には「なぜ私たちが?」という戸惑いの表情が顔に出ていました」

それでも少年の日の歴史や意味合いをこれから伝えていくことで、生徒たちは「これは自分たちの行事なんだ」と自覚。その中で立候補により実行委員会も結成された。

みんなで挑戦する

北伊予中学校では、その年ごとに、学年全体での誓いの言葉を一つ選んでいる。

「実行委員と話し合って、今年は『挑戦』にしました」ときっぱり話すのは、谷本恵里名さん。記念集会の実行委員長だ。

「学年のイメージとして、『2年生は、3年生や1年生に比べて、おとなしい』とよく言われています。



会場に飾られた誓いの色紙

自ら導き出した答えを、それぞれがかみしめるように、声を張り上げるように発表。

最後に「われら14歳 夢や希望の実現に向け 今大きく羽ばたきます」と全員で叫ぶと、その声は体育館中に広がり、会場に集まった人たちの大きな拍手となって反響した。

記念集会終了後、たくさんの保護者たちが帰路を急がず、色紙をじっくりと見つめる姿からは、子どもの成長を喜ぶ姿がうかがえた。保護者の中矢温恵さんは「子どもの成長に感動しました。これも周りの人みんなのおかげです」としみじみ話していた。

自分自身に問い掛け、向き合うことで大きく成長した生徒たち。もう「おとなしい」はずの14歳の姿は、どこにもない。

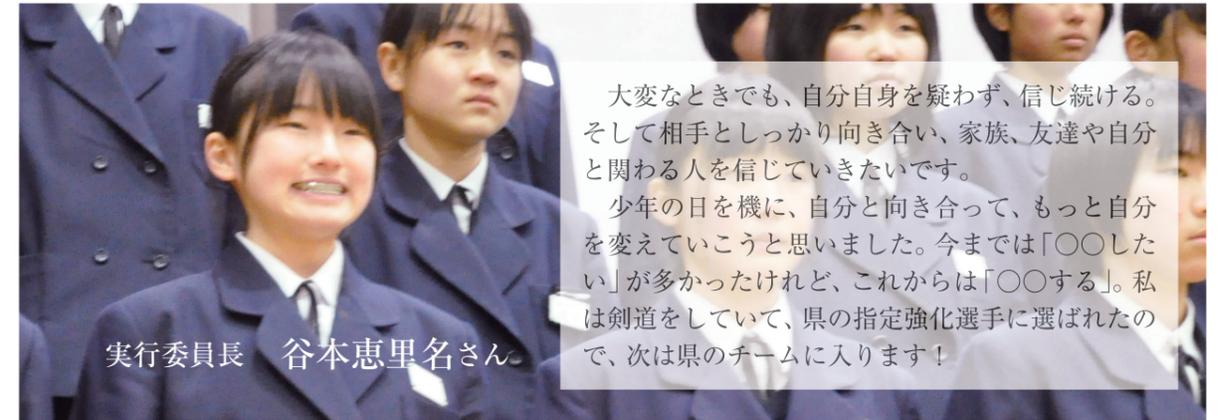
実行委員の皆さん、笑顔を見せながら、突進していき、自らの答えを胸に、突進していき



誓う 14歳、自らに

体育館中に響いた誓い。
 少年少女はいかにその言葉を選び、そこから何を感じたか—

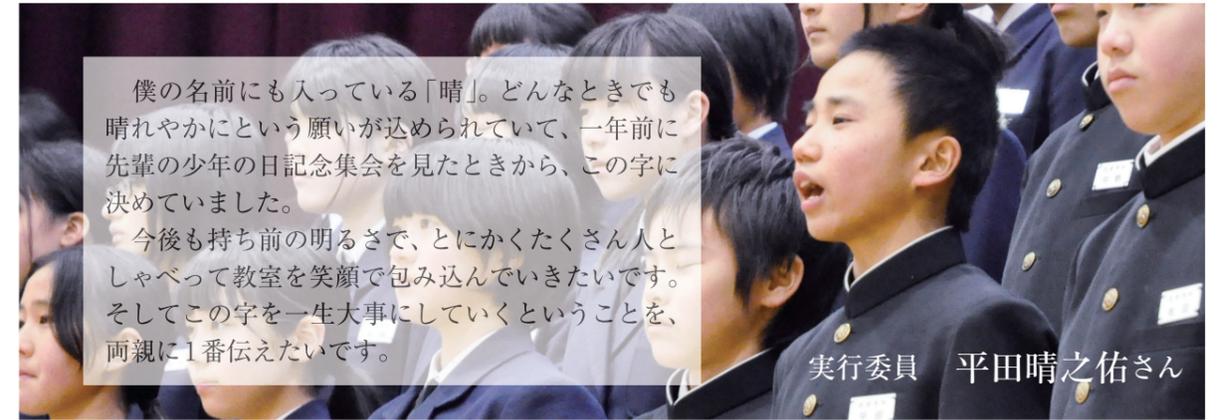
相手を**信**じ、何事にも挑戦できる人間になります。



実行委員長 谷本恵里名さん

大変なときでも、自分自身を疑わず、信じ続ける。そして相手としっかり向き合い、家族、友達や自分と関わる人を信じていきたいです。
 少年の日を機に、自分と向き合っ、もっと自分を変えていこうと思いました。今までは「〇〇したい」が多かったけれど、これからは「〇〇する」。私は剣道をしていて、県の指定強化選手に選ばれたので、次は県のチームに入ります！

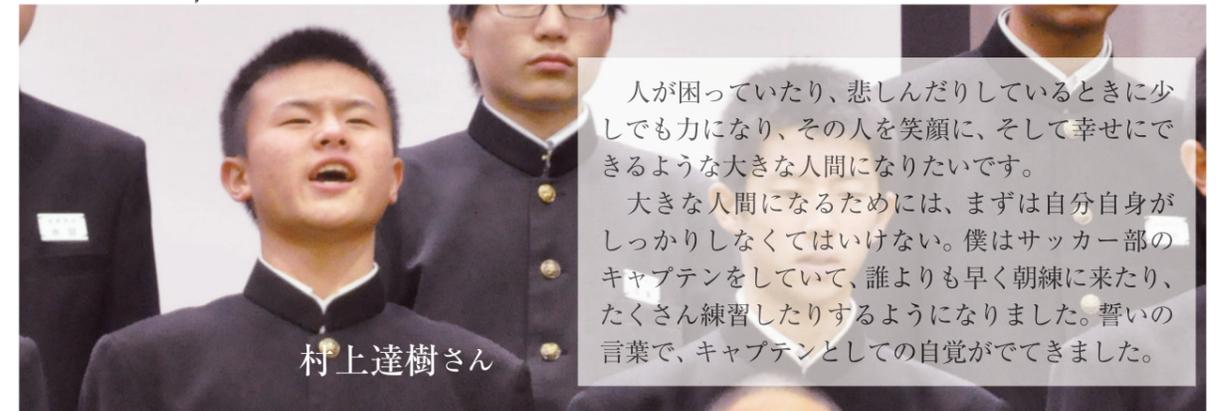
どんなときも場を和ませられる、**晴**れやかな人間になります。



実行委員 平田晴之佑さん

僕の名前にも入っている「晴」。どんなときでも晴れやかにという願いが込められていて、一年前に先輩の少年の日記念集会を見たときから、この字に決めていました。
 今後も持ち前の明るさで、とにかくたくさん人としゃべって教室を笑顔で包み込んでいきたいです。そしてこの字を一生大事にしていくということを、両親に1番伝えたいです。

人を**幸**せにできる人間になります。



村上達樹さん

人が困っていたり、悲しんだりしているときに少しでも力になり、その人を笑顔に、そして幸せにできるような大きな人間になりたいです。
 大きな人間になるためには、まずは自分自身がしっかりしなくてはいけない。僕はサッカー部のキャプテンをしていて、誰よりも早く朝練に来たり、たくさん練習したりするようになりました。誓いの言葉で、キャプテンとしての自覚ができました。

もう一度

かつては14歳—。今、あのころの誓いを

人とは違う**変**わったことをして、みんなを笑顔にできる人になりたい。

池内力さん=神崎=

色鮮やかなカリフラワーなどの野菜を作ったり、れんげ畑に子どもを招待したりして、周りのみんなを笑顔にしていきたい。



▶池内さんが作った野菜



▶26年1月19日に生まれた翼くん

元気いっぱい**羽**ばたいて、感謝の気持ちを忘れない家族にしたい。

水口翔さんファミリー=鶴吉=

わが子を前にして「元気に育ってほしい」という言葉の本当の意味が分かりました。この子と一緒に、元気に感謝の気持ちを忘れず生きていきたい。

親、地域との**輪**を大切に、ひまわりのような笑顔が**咲**く幼稚園にしたい。

松前幼稚園教諭の皆さん

今の子どもたちは、花のつぼみのような存在です。将来、大輪の花を咲かせて**咲**顔でいられるようにするために、このことを大切にする幼稚園にしたい—。60周年を迎え、改めて感じました。



少年の日を迎え、誓いの言葉を胸に大人への一步を踏み出した14歳の皆さん。一人前の大人として扱われることを自覚し、「なりたい自分」を思い描いて誓いを立てたことで、自分自身を成長させていきました。
 でも、「〜のようにになりたい。〜したい」という思いは、14歳の皆さんだけが持っているものではありません。大切なことは、誰もが持っているこの気持ちを自覚して、挑戦していこうとすることです。
 ただ「なりたい」と漠然と思っ、ているだけでは、その思いは現実にはならず、自身を成長させることもないのです。
 3月は「別れの季節」です。卒業、退職、引越など、4月の「出会いの季節」に向けて、あなたの周りですさまじく環境の変化が訪れます。この節目は、もう一度「なりたい自分」を見直すのにちょうどよい時期なのかもしれません。
 自分に問い掛ける。そして、誓う—。もう一度、あなたも自分と向き合ってみませんか。